

1月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		①	②	③	④	⑤
6	⑦	8	9	10	11	12
13	⑭	⑮	16	17	18	19
20	⑰	22	23	24	25	26
27	⑳	29	30	⑳		

○印 休館日
月曜日、祝日(15日)、年始休館(1日～5日)
月末館内整理日(31日)

ふるさとの

母と福神詣かな

正月松の内に、恵比須・大黒・毘沙門・福祿寿・弁天・布袋・寿老人の七福神を祀る神社を巡る、吉例を言います。

◇新刊書のお知らせ

シリーズ 中学生、高校生の発達と教育 一～三 堀尾輝久他
世紀末の女神 中沢新一
男の器量は女房しだい広瀬久美子
やさしいお正月料理・小粋な小鍋

ジョンとヨーコラストインタビュー
あした天気になあれ海老名香葉子
失われた声 加東祥子
チャスラフスカの証言
千利休と日本 工藤美代子
ぶらり骨董散歩東京古美術店案内 栗田 勇
捨ててこそ、首領 小説金丸信
牧野伸顕日記 中央公論社
甲州街道を歩く 街道シリーズ
かぶき入門 郡司正勝
結婚しましょ! 井形慶子
赤ちゃんと読み方をどう教えるか
女二人の四二・一九五キロ
幸福の瞬間 池坊由紀
近代日本の批評昭和篇 柄谷行人
遠い園生 辻 邦生
ローマは光のなかに I・シヨ!
Z.P. 吉本ばなな
垂直の街 森 瑤子
花影の花大石内蔵助の妻平岩弓枝
戦国英雄伝 時代小説の楽しみ

♥児童図書

ダンボールばこで遊ぶくふう
うまくなるサッカー
日本・世界のおはなし①一話
わかったさんのショートケーキ
スキーだやっほう
世界のことばあそびえほん
おぼえようABC
チラホラもりのはいしゃさん
わたしがあかちゃんだったとき
アンパンマンとめざましくん
エンソくんきしゃにのる
外七十六冊

褐色の祭り 上・下 連城三紀彦
娘に語る祖国 つかこうへい
武装島田倉庫 椎名 誠
わが愛しきものの神殿 上・下
アリス・ウォーカー
微熱 赤川次郎
天翔ける倭寇 上・下 津本 陽
夏の雨 M・デュラス
出発に年齢はない 萩原葉子
外一四二冊

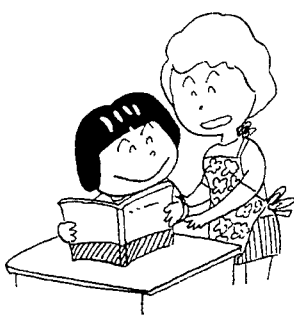
この本読みましたか?

この国のかたち1・2	司馬遼太郎
国際情報JUST NOW	落合信彦
ベトナム難民少女の十年	トラン・ゴク・ラン
それでも「No」と言える日本	石原慎太郎
ジェンダーの神話	アン・ファースト ＝スターリング
精神と物質	立花隆・利根川進
夢	黒沢 明
アラブ人とユダヤ人	朝日新聞社
日本は悪くない	ビル・トッテン
生徒たちのマツシロ大本営	篠ノ井旭 高校郷土班
決断一生体肝移植の軌跡	永末直文
寝たきり老人のいる国はない国	大熊由紀子
永訣かくのごとくに候	大岡 信
時代小説の楽しみ 1-8	新潮社
きのね 上・下	宮尾登美子
天井の青 上・下	曾野綾子
愛される理由	二谷友理恵
恋愛論	柴門ふみ
文学部唯野教授	筒井康隆
マイ・レフト・フット	クリスティ・ブラウン
ストロベリー・ボーイ	石川 好
よく生きる よく老いる	大宅 昌
わが性と生	瀬戸内晴美
三島由紀夫の世界	村松 剛
木を植えた男を読む	高橋勲 ジョン=ジオノ
真夜中は別の顔 上・下	シドニィ・シェルダン
日の名残り	カズオ・イシグロ

これらの本は、話題になったり、ベスト・セラーになった本の一部です。図書館でどうぞ...

子どもの心シリーズ (19)

思春期



日本と欧米では、家庭を運営する人間関係の中心がちがいます。日本では親と子の関係を中心にして生活が営まれています。欧米では夫婦が中心となっています。ですから特に日本の母と子は母子一体感という感情を持っています。母子一体感という感情は、「子どもこそ私の命。生きがい。子どもの喜びは私の喜び。子どもの悲しみは私の悲しみ。」という感情です。二八〇日もおなかの中で育てたのですから、そういう感情が生まれるのは当然でしょう。だから「親はどんな苦勞をしてもよい。どんな事でも耐えて育てる。」という感情になるのです。それに比べて夫婦の人間関係の一体感の方が弱いようです。

そのような感情が母子にありますから、母親は子どもに対して保護しようという感情が強いのです。幼児期に子どもがいじめられると、自分がいじめられたようになって、前後も確かめないうで、相手が悪いと決めてしまったり、相手の家へどなっていったりします。小学生くらいになると、母子一体感の強い親は、一〇〇点をとってくると自分で満点をとったように喜びます。それが二〇点、三〇点となると、どうしようもない不快感で一杯になり、子どもをどなりつける人もいるのです。中学生になると偏差値やテストの点に異常に関心をもちようになります。高校・大学の入試に付き添う親もたくさんいます。

母子一体感をもっている母の子は、十八、九歳になっても親を頼りにします。そして自立した生活ができなくなります。これは子どもにとっても、親にとっても不幸といわなくてはなりません。子どもを産んだ以上、子どもを育てる義務は親にあるのは当然です。母子一体感は生まれた時から次第に薄めていくことが大切です。幼児期のままの一体感を持つづける事は不幸であるといえます。このために親の思いどおりに育てようとすることは問題があるではないでしょうか。中学生、高校生になつた子の生活に深入りすると後になって問題が多いようです。

教育相談室 ☎43-1111
内線 216